

第12回体育・スポーツ科学関連 三大学院連携事業報告

Report on the 12th Tri-university Graduate-level Physical Education and Sports Program

伊原 佑樹

Yuki IHARA

1. 三大学院連携事業の歩み

2002年（平成14年）11月、東京世田谷近隣の三大学院の交流を図れないかという加賀谷淳子日本女子体育大学学長（当時）の提案を受け、2003年（平成15年）2月19日、日本体育大学、国士舘大学そして日本女子体育大学の学長・研究科長の出席のもとに、第1回「三大学院間交流の準備会」が日本女子体育大学において開催された。この会では、「三大学院間の交流を行って、各大学院が持つ知的資源（人的、物理的）を共有、あるいは一部提供できる場を設置する」ことを目指し、今後の交流の進め方について意見交流が行われた。当初は三大学院間での資格付与や単位互換について積極的に検討していきたいとの意見があったようであるが、各大学院のカリキュラムを考慮した調整に多くの時間を要するとのことで、当面は合同シンポジウムの開催ということでまとまったようである。2004年（平成16年）に第1回の体育・スポーツ科学関連三大学院連携事業が日本体育大学で開催された。現在では、三大学院間での単位互換制度が実施され、今年度で本事業は、第12回目の開催を迎え、国士舘大学多摩キャンパスに於いて、平成26年11月22日（土）に開催された。大会の概要・プログラムは以下の通りである。

2. 三大学院連携事業の概要

【期日】平成26年11月22日（土）

【会場】国士舘大学多摩キャンパス

【当番幹事】国士舘大学大学院

3. 大会プログラム

12:00～13:00 受付

13:00～13:05 開会の挨拶

角田 直也（大学院スポーツ・システム研究科 研究科長）

13:05～14:20 第1部 シンポジウム

（教室管理棟2F 201教室）

「保健体育教師の現状と未来」

司会 北神 正行

（国士舘大学）

パネリスト 近藤 智靖

（日本体育大学）

須甲 理生

（日本女子体育大学）

田口 康之

（国士舘大学）

14:20～14:35 休憩

14:35～15:35 第2部 講演

(教室管理棟 2F 201教室)
「スポーツトレーナーの未来」

司会 須藤 明治

(国士舘大学)

講演者 阿部 良仁

(特定非営利活動法人
NSCA ジャパン)

15:35~15:40 閉会の挨拶

池田 延行 (国士舘大学)

15:50~16:50 懇親会 (食堂)

4. 総括

第12回体育・スポーツ科学関連三大学院連携事業は「修士取得者の新しい体育指導者の姿」を主題とし国士舘大学多摩キャンパスで開催された。第1部シンポジウムでは、三大学院の先生方が「保健体育教師の現状と未来」というテーマで専修免許取得者の保健体育教師としての在り方について、第2部講演では、特定非営利活動法人NSCA ジャパンの阿部良仁氏が「スポーツトレーナーの未来」というテーマのもと講演を行った。

【第1部】

第1部シンポジウムでは、「保健体育教師の現状と未来」というテーマで、実践力を持つ教員の養成という観点から三大学院の先生方が講演を行

った。本学からは、田口康之教授が「現場・行政サイドから期待する保健体育教師の在り方」について講演を行った。その中で、学校現場では社会の変化と教員気質の変化によって、授業や教育だけでなく学校の諸問題、それに伴う生徒指導や保護者への対応等の専門性を有した教員が求められている事について述べられた。また、今日では現場での教員の研修・育成が厳しい状況にあり、教員の養成時期である大学や大学院における現場体験や課題への対応を学ぶカリキュラムの機会を得られる教員が必要と述べられた。

また、日本体育大学の近藤智靖准教授は「大学院における教員養成の現状・課題・展望—日本体育大学大学院を事例として—」について、日本女子体育大学の須甲理生講師は「学部における保健体育教師養成の在り方」について講演を行った。大学、大学院及び現場と、それぞれの視点から保健体育教師の現状と未来について講演を行い、参加者の中にも多数の教員志望の大学院生がいたことから、質疑でも活発な議論が行われた。教員または指導者を目指す大学院生にとって、貴重なお話であり、今後目指すべき教師像の知見を得られたであろうと考えられた。

【第2部】

第2部講演では、「スポーツトレーナーの未来」というテーマで、特定非営利活動法人NSCAジ



田中康之教授



シンポジウムの先生方

左から近藤准教授、北神教授(司会)、須甲講師、田口教授



阿部良仁氏



阿部良仁氏と前川渚氏（NSCA ジャパン事務局）と研究科長の角田直也教授

ジャパンの阿部良仁氏が講演を行った。

前半は、まず日本とアメリカのスポーツ環境についてアメリカのカレッジフットボールを中心に述べられた。その中で、日本とアメリカのスポーツ環境の違いとして、アメリカはスポーツを観戦する意欲が高く、また、スポーツに関わる職種が多いという事である。カレッジフットボールのあるチームではスキルコーチやトレーナー等のスタッフが30人在籍しチームを支えていると述べられ、スポーツとしての職が日本に比べ豊かであると述べられた。また、スポーツトレーナーの種類を「アシスタントトレーナー」、「ストレングス&コンディショニングコーチ」に分類して、それぞれの主な役割や、組織に所属する場合にはその位置づけやその活動状況などについて述べられた。

後半では、現在、日本やアメリカを中心に第一線で活躍されている様々なトレーナーや研究者などの活動状況を紹介していただきました。さらに阿部氏自身が実際に取材をし、指導において最も大切にされている点などや、また、今後「スポー



阿部良仁氏と司会の須藤明治教授



懇親会風景

ットレーナー」として活躍していくために必要と思われる要素やアドバイスを紹介していただきました。この中で、現場で指導されている方は、選手の指導に対して、できるだけ選手の立場になって考えることを心がけていると述べられた。また、挨拶、返事ができないで何か人から学ぼう、教え

てもらおうというのは間違いで挨拶や礼儀を重んじる等スポーツだけでなく人としての教育もされているという事やトレーニングの知識等はあることが当たり前で人間性を磨く必要がある事といった内容を実例を交えて紹介された。

講演終了後は、食堂に会場を移して懇親会が行

われ、各大学院の大学院生は他の大学院生と交流を図り、シンポジウムや講演内容または自身の研究に対して等の意見交換が活発に行われ盛況のうちを終了となった。

来年度、第13回スポーツ・科学関連三大学院連携事業は日本体育大学で行われる予定である。

本大学院生のテーマ一覧

海保 享代	運動中の息止め後における呼吸・循環の回復過程について
古谷 修	合気道の身体運動学的研究
右代 啓祐	十種競技における競技力向上に及ぼす種目別要因の分析
山崎 源太	運動習慣による安静時代謝量の変化について
五喜田 尚子	大学女子サッカー選手における股関節及び下肢筋群の筋体積とその筋出力特性
新倉 愛一朗	中高生男子サッカー選手における間欠的有酸素性能力と試合中の移動距離に関する研究
豊田 賢治	ハンドボールの競技力向上に関する研究：日本と世界のゲーム分析からみた検討
竹澤 恵菜	女子新体操選手における身体発育とバランス能力の発達
市川 大樹	コンディショニングと唾液中ストレスホルモンの関係について
横山 隼人	大学男子サッカー選手における股関節及び下肢筋群の筋体積とその筋出力特性
寺田 弘太	ハンドボール競技における競技力向上に関する研究
藤原 悠太郎	異なる速度の伸張性収縮でのトレーニングが上腕屈筋群に対して与える影響
宇佐美 里香	空手道有段者における形動作の運動学的研究
田中 理沙	空手道の競技種目と基本動作に関する運動学的研究
日向 裕介	アプローチ方法の違いが大学生の身体活動量に及ぼす影響
右代 織江	やり投げのトレーニングとしてのターボジャブの有効性
今若 太郎	野球選手の走塁能力に関する研究
友池 翔一	競歩動作の運動学的研究
半田 守	ジュニアレスリング選手の発育発達に関する研究
岡田 寛	脊柱狭窄症患者における筋繊維変化について
頼光 一太郎	筋力発揮中の筋の収縮形状に関する研究
中岡 侑輝	筋量が体脂肪減少に与える影響について
澤田 譲治	大腿骨前捻角が片脚スクワット時の下肢関節に及ぼす影響について
西村 貴大	ラグビーの試合・トレーニングにおけるGPSの活用法と可能性
金子 晃大	アメリカンフットボール選手の方向転換動作についての研究
樋口 賢太	フロアボール競技における競技力向上に関する研究
蓑輪 貴幸	バレーボール選手のブロック反応時間に関する研究
後藤 清志	羽状角における筋形状変化からみた筋収縮特性
穴井 さやか	大学女子柔道選手の階級別にみる筋力・筋パワーの特徴について
服部 弘幸	筋収縮形状と跳躍能力に関する研究
渡邊 あすみ	女子柔道の減量期における月経異常について
芦田 大介	下肢骨格筋の筋出力と筋形状変化からみた収縮特性
趙 顯祐	大腿部における骨格筋の形態及び筋形状の変化からみた筋収縮特性
池上 聖史	陸上選手における下肢筋群の筋形状変化による収縮特性に及ぼす競技種目特性
中澤 雄飛	身体教育論に関する研究
岩淵 雄大	オーストラリアにおける日本人柔道指導者の指導方法形成プロセス
宋戸 柚香	武道教育の現在性について
田熊 さやか	環境問題の啓発に果たす体育・スポーツ活動の役割に関する研究：野外教育・野外活動の分析を通して
中山 孝晃	発達段階に応じた短距離走・リレーの学習指導に関する研究：小学校・中学年・高学年を対象に
酒井 瞳	高等学校における投擲の授業づくりに関する研究：資質・能力論に基づいて
竹田 展大	レスリングのウォーミングアップに関する研究
芦澤 卓馬	スポーツによるまちづくりに関する研究
平林 将	剣道の授業づくりに関する研究
佐藤 雄哉	柔道の国際化に関する研究